



幸手小だより

幸手市立幸手小学校 令和7年度11月号 児童数259名



夢いっぱい
友だちいっぱい
笑顔いっぱい

学校評価から子供の学びを考える ～落ち着いた環境づくり～

校長 川島正晴

10月4日(土)に開催された運動会では、たくさんの保護者や地域の方々にお越しいただき、子供たちの活躍する姿を見ていただきました。厚く御礼を申し上げます。

また、保護者や地域の皆様には、毎日の登下校の見守り、学校の教育活動への御理解と御支援をいただきまして、心から感謝申し上げます。

子どもたちは、11月4日(火)から水泳学習が始まります。学習後の頭髪のふき取りをはじめ、体調管理には気を付けてまいります。御理解・御協力をいただきますようお願いいたします。



1学期の学校だよりで、順調に活動が進んでいるところ、まだ努力の必要などころがわかりました。

一つは、授業が分かりやすい、という児童や保護者が95%を超えているところです。幸手小学校では、お友達に聞いたり相談したりしながら、自分で課題に取り組む「一人学び」を推進しています。これができる、日本の教育課題である「探究」のできる子供に育ちます。こうした授業で、わかりやすいと感じていることから、今後学力向上に向けた取組を一層推進していくことができます。

二つ目は、タブレットの利活用です。これも95%近くの児童や保護者が授業での活用に肯定的な意見を出してくださいました。今年度、文部科学省のリーディングDX事業、生成AIパイロットスクール事業に取り組んでいる結果です。児童は、調べたり表現したりまとめたりと、多様な目的でタブレットを活用しています。紙ベースの学習と合わせて、ICT利活用も進めてまいります。

他方で、あいさつや廊下歩行、特に、家庭学習に課題が大きく見られました。80%に届かない学年も見られます。宿題、自学などは、塾やスポーツなど、忙しい生活の中にも、きちんと位置付けていくことが大切だと感じています。

学校での「一人学び」は、家庭でも一人で学習ができる力を育てなければならないと思って取り組んでいます。やる気も育てていく必要があります。

今、文部科学省は、新しい学習指導要領の改訂に取りかかっています。一人学びや探究のできる力を育てる内容が中心となるでしょう。

一月後には、幸手市統一学力テストもあります。学校の学びと家庭の学びを一体として考えて取り組んでいきますので、皆様の御理解と御協力をお願いいたします。

令和7年度の幸手小学校は、文部科学省委嘱の「リーディングDX事業」研究指定校、文部科学省指定「生成AIパイロット校」になっています。12月12日(金)に、5年生の授業で研究発表会を予定しています。内容は別途、改めてお知らせいたします。